大阪大学
OSAKA UNIVERSITY

OPEN 2021

想い
つなげる
つむぎあう
2021
90th OU | 100th OUFS

箕面市の文化・学術の拠点ともなる国際キャンパス

Osaka University GLOBAL CAMPUS

大阪大学 箕面新キャンパスのコンセプト

（今後、再開発エリア全体、さらには既存市街地とも協調し発展に貢献したい）

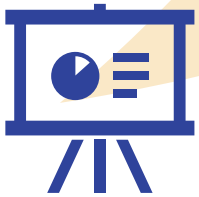
箕面新キャンパス

▶ 西日本全域に訪れる優秀な国費留学生の拠点

▶ 外国語学部・言語文化研究科・日本語日本文化教育センター・学寮等

学生数：約3000人（男女比＝約4:6）　教職員数：約200人　留学生数：約300人（毎年約50ヵ国から）

大阪大学全体（豊中・吹田・箕面の3キャンパス）
全学生数：約23000人　教職員数：約6500人　留学生数：約2200人

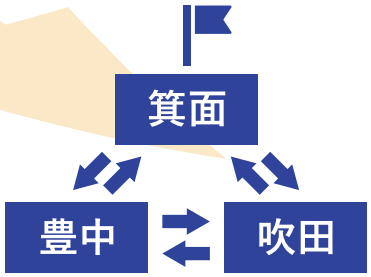


世界の言語と文化や
社会に関する
研究の集積拠点

グローバル人材を
育成する場

外国人留学生教育を
通し世界に向けて
日本語・日本文化を
発信する拠点

外国語・外国学研究の
成果を介して
交流できる
地域と世界の接点



阪大の主要
3キャンパスの
交流拠点

大阪大学 箕面新キャンパスのコンセプト

（今後、再開発エリア全体、さらには既存市街地とも協調し発展に貢献したい）

大阪大学 OSAKA UNIVERSITY　OPEN 2021　想い つなげる つむぎあう 2021 90th OU | 100th OUFS

箕面市の文化・学術の拠点ともなる国際キャンパス

Osaka University GLOBAL CAMPUS

大阪大学	箕面市民	大阪船場繊維卸商団地協同組合	多様な民間事業者
外国語学部・言語文化研究科・日本語日本文化教育センター・学寮	多様な団体、参画のかたち		参入を期待

3つのテーマによって構成されるキャンパス

グローカル※1 キャンパス	3キャンパスの交流拠点	世界の文化や言語の多様性の縮図となる	日本の文化発信と世界中の人々の受け入れ・交流	学生・研究者・企業の世界進出拠点、世界の多様な文化圏へのマーケティング
スマートキャンパス	生きた実験室“リビングラボ”でのICT活用※3	情報、エネルギー利用、モビリティ（交通）等のスマート化※4	地域特性と不動産ストックを最大限に活用	
サステイナブル※2 キャンパス	生活スタイルの多様性とヘルスケア	人材育成、インターンシップ、生涯学習のフィールド	繊維とデザインの街	公共的スペースの幅広い使い方を可能にするエリアマネジメント※5とより広域的な連携

大阪大学 箕面新キャンパスのコンセプト

（今後、再開発エリア全体、さらには既存市街地とも協調し発展に貢献したい）

大阪大学 OSAKA UNIVERSITY　OPEN 2021　想いつなげる つむぎあう 2021 90th OU | 100th OUFS

グローカル※1キャンパス

世界と市民を結ぶキャンパス

- **3キャンパスの交流拠点**
- **世界の文化や言語の多様性の縮図となる**

  周辺地域との調和があり、市民と共生し、多言語・多文化共生を実現するキャンパスを目指しつつ、3キャンパスの交流拠点となる。

- **日本の文化発信と世界中の人々の受け入れ・交流**

  都市型キャンパスの特性を活かして、市の文化交流施設やホールとの効率的共同利用を図り、世界と地域を結びつける多彩な文化活動を展開

  ・世界の言語や文化を紹介する多彩な行事（語劇祭や夏まつり）を市民に開放
  ・日本語日本文化教育センターの留学生と、市民との交流により、日常の中での異文化理解を実現

- **学生・研究者・企業の世界進出拠点、世界の多様な文化圏へのマーケティング**

  産学連携による技術研究のシーズを多文化多言語にわたって実装していくためのベンチャー育成・実証フィールドとする

  ・学生・教職員の活動拠点を形成するとともに、市民や海外の研究者等来学者との交流を通して、地域の活性化に貢献
  ・阪大生・企業・市民にとって世界進出への足掛かりとなる場にしていく
  ・学生・企業・市民は「このキャンパスに集うこと」と「周辺のまちに出ること」が、留学や企業の海外進出のきっかけ、あるいは多様な文化に触れる機会となり、さらに世界の多様な文化に対応するマーケティングの機会ともなる

スマートキャンパス

地球と人に優しい未来志向のキャンパス

- **生きた実験室“リビングラボ”※3でのICT活用**

  キャンパスそのものがロボット等の新しい技術や社会システム等を実践の中で試行していくことができる生きた実験場となる

- **情報、エネルギー利用、モビリティ（交通）等のスマート化※4**

  公共交通の便利な立地特性を生かし、車に頼らず歩行者に優しい、快適なキャンパスを構築

- **地域特性と不動産ストックを最大限に活用**

  大阪大学 箕面新キャンパスを中心としつつ、周辺市街地の既存建物や民間施設、市の文化施設をフルに活用したプログラムを展開することが望まれる

サステイナブル※2キャンパス

文化と言語の多様性に支えられた文理融合の新しい産学官民連携

- **生活スタイルの多様性とヘルスケア**

  地球環境とサステイナビリティに配慮し、省エネ・省資源・廃棄物低減を推進しつつ、低炭素化社会に向けて、市や周辺施設との相互利用や共用化を図るキャンパスを目指す

- **人材育成、インターンシップ、生涯学習のフィールド**

  留学生を含め多くの学生が、インターンシップ等を通じてまちに関わり成長しながら、街の発展にも貢献できる

  ・25言語にわたって展開できる多文化多言語の研修や人財育成のプログラム

- **繊維とデザインの街**

  大阪大学 箕面新キャンパスを中心としつつ、周辺市街地の既存建物や民間施設、市の文化施設をフルに活用したプログラムを展開することが望まれる

  → 周辺の既存不動産を活かし、『世界の縮図』を新船場に創出することに貢献できると想定される（右のイメージ図）

- **公共的スペースの幅広い使い方を可能にするエリアマネジメント※5とより広域的な連携**

  エリアマネジメントの発想で、屋外スペースや市の複合施設とも一体的に使われる、市民にも開かれたキャンパス

  ・学生（外国人/日本人）や研究者（大学/企業）、市民の交流を育む、再開発地区に留まらない、多文化多言語交流のエリアマネジメント
  → 新キャンパスと既存市街地がゆるやかに連携しつつ発展
  ・キャンパスの整備と運営や維持管理においても周辺関係者と幅広い連携をする事で、環境・経済面での効率を高めた
  ・持続性の高いキャンパス経営を実現
  大学と地域の双方にとって、災害時に一定の拠点機能を果たすことができるキャンパスを形成

［ことばの説明］
※1 グローカル：グローバル（世界的な）とローカル（地域の）を合わせた造語。　※2 サステイナブル：「持続可能な」の意味であるが、省エネ・省資源にとどまらず社会との関係や経済、経営、防災等含めた幅広い意味での持続可能性として捉えている。　※3 リビングラボ・ICT：リビングラボとは、理系の実験はもちろん社会実験まで含めて、キャンパスは生きた実験場であるという考え方。ICTは「情報通信技術」の略語。　※4 スマート化：ICT技術の活用により、交通やエネルギー、照明や空調などの様々なシステムについて、効率的かつ洗練された運用ができるようにすること。　※5 エリアマネジメント：国交省の定義によると「地域における良好な環境や地域の価値を維持・向上させるための、住民・事業主・地権者等による主体的な取り組み」のこと。市、大学、組合、市民等が連合してつくりあげていかなければならない。　※6 シーズ：実用化される前の段階の「種」となる技術やノウハウのこと。

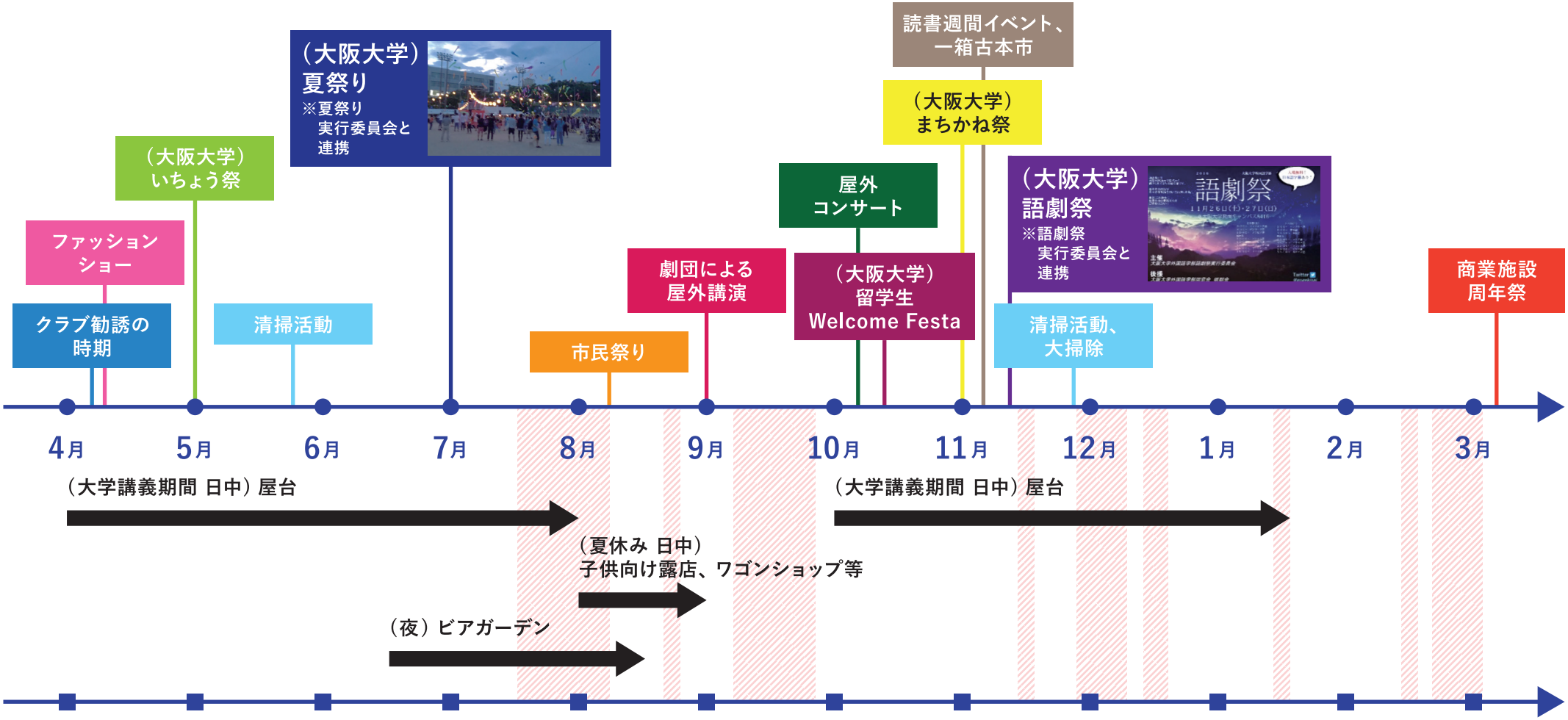
大阪大学 箕面新キャンパスのコンセプト

（今後、再開発エリア全体、さらには既存市街地とも協調し発展に貢献したい）

参考資料

広場やメインストリート（デッキ）での、エリアマネジメントとしての活動イメージ

コンセプトから考えられる、広場やメインストリート（市が計画するデッキ）での多様な主体による賑わいのイメージである。



（月一、休日または随時的に）ファーマーズマーケット、路上パフォーマンス、ストリートウエディングなど

印は、大阪大学の試験等により特に静粛性を確保したい期間（年によって変わったり、表示以外にも発生することもある）

※写真は夏祭り実行委員会、語劇祭実行委員会のHPより抜粋